

南坂8号墳現地説明会資料

2004(平成16年)12月18日(土)
岡山市教育委員会

◎ 南坂8号墳(古墳時代前期)

岡山市下足守字陰地の足守平野に面した尾根上に位置する。全長約27m、後方部長約15m、幅14m以上、高さ約2m、前方部長約12m、幅約9m、高さ約0.8mの、前方部を北西に向ける前方後方墳である。

後方部中央には、長さ3.7m幅約1.2m高さ約1.1mのの竪穴式石室がある。床面には円礫が敷かれ、石室北西端部から南側のくびれ部へのびる延びる排水溝を伴っている。石室内部からは管玉が1点検出されている。

◎土器棺(古墳時代前期前半)

墳丘南側のくびれ部付近に位置し、墳丘築造後に埋葬されたと考えられる。最大胴径26cmの壺で、頸部を打ち欠いており、高坏を蓋に用いたと考えられる。

◎埴輪棺(5世紀末～6世紀初頭)

後方部南東側墳端から、5mほど東に位置する。1.3m×0.5m程の楕円形の土壇の中に、3個体以上の円筒埴輪を組み合わせて埋葬していたと考えられる。

◎石蓋土壇1(6世紀後半)

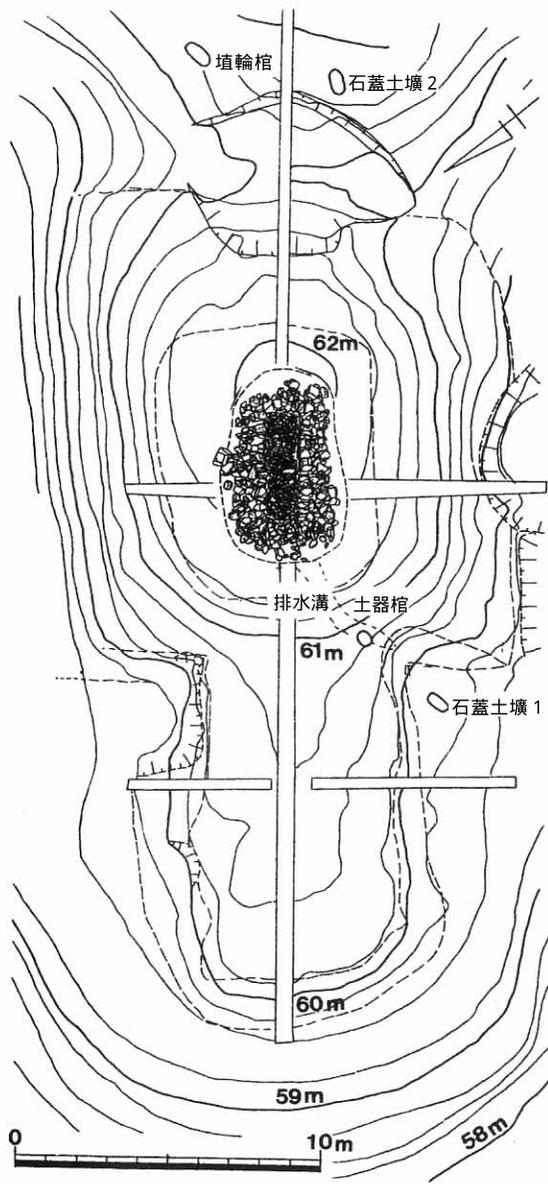
南側くびれ部の墳端付近に位置する。長1.2m幅0.4mの土壇上に4石の蓋石がおかれ、須恵器の坏蓋と坏身が副葬されていた。

◎石蓋土壇2(6世紀中葉)

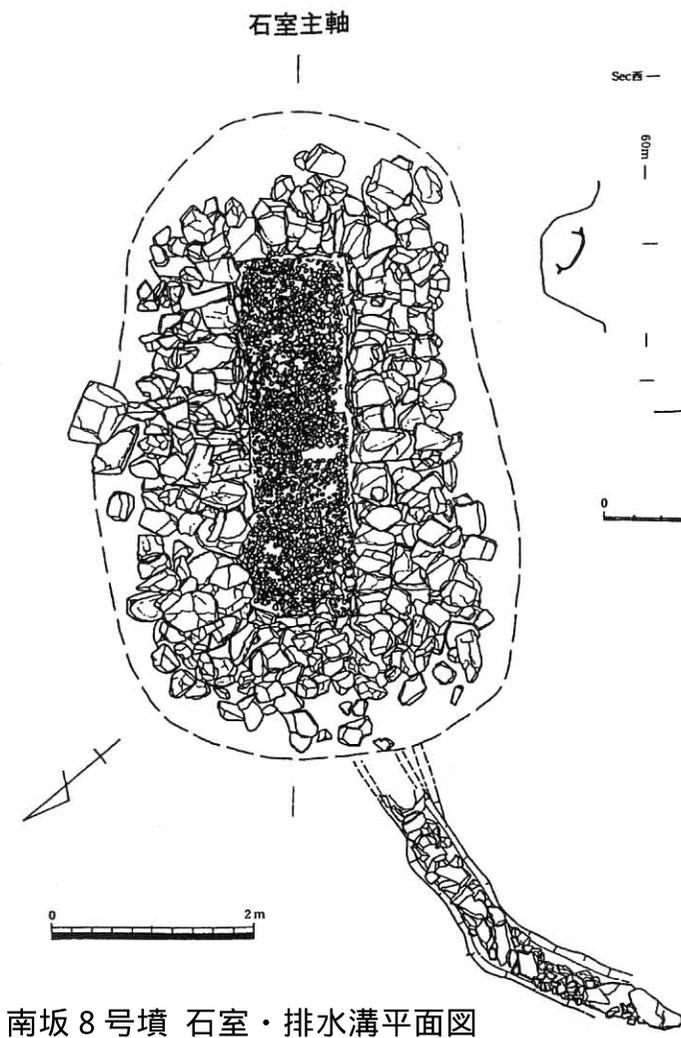
後方部南東側墳端から、5mほど東に位置する。埴輪棺より南西へ5m程離れている。1m×0.6m程の土壇上に2石が置かれ、須恵器の坏蓋2と坏身1が副葬されていた。木根の影響により石蓋土壇1に比べ残存状況が悪い。

◎第2主体石室(6世紀末～7世紀初頭)

南坂8号墳の竪穴式石室の南半部に、石室を再利用して築かれている。内部からは枕に転用された須恵器の坏身と坏蓋および、鉄鏃が出土している。

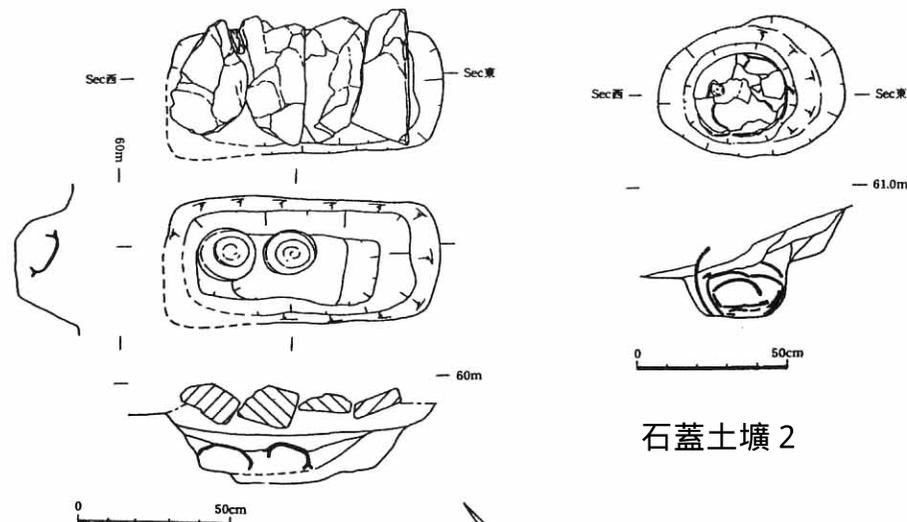
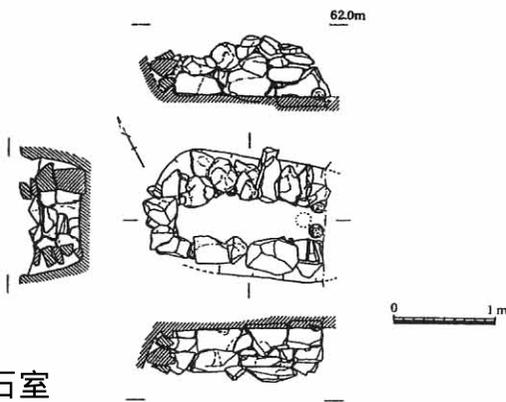


南坂8号墳 墳丘測量図



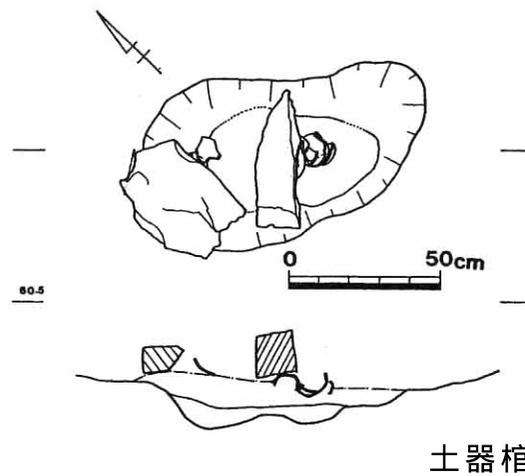
南坂8号墳 石室・排水溝平面図

第2主体石室

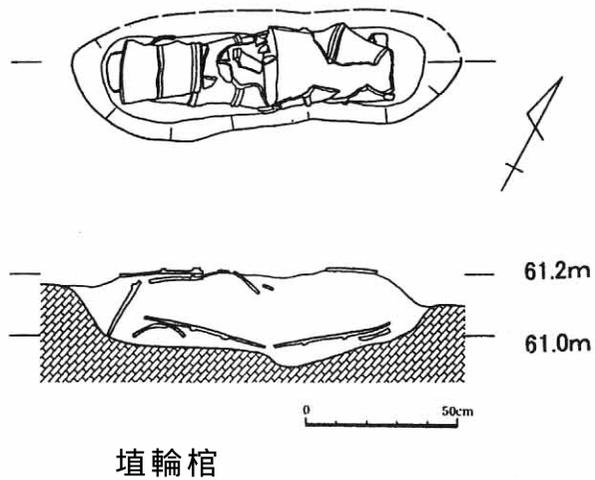


石蓋土壙1

石蓋土壙2



土器棺



墳輪棺